

千葉市議会議員

たばた直子

議会報告
レポート
VOL.24



熊谷市長に対し、今後の市政における重点政策を要望しました。

今後も、少子超高齢化が進むことから、市民一人一人の生活を守る福祉の充実、ともに生きるまちづくり、次世代の育成を進める市政を目指し、活動してまいります。



平成29年度予算議案をすべて可決しました。

（平成29年度予算）

- 一般会計 4415 億円（前年度比 411億増 10.3%増）
- 特別会計 4678 億 8200 万円
(前年度比 310億 6200万円増 7.1%)
- 合計 9093 億 8200 万円
(前年度比 721億 6200万円増 8.6%)

★ 県費負担教職員の給与負担等の移譲（予算額 434 億 5,600 万円）

独自の学級編制基準により少人数学級を拡充
音楽・理数教育のための講師配置の充実

★ 放課後子ども教室の推進（予算額 5,400 万円）

子どもルーム一体型モデル事業の実施（稻浜小学校）
大学・企業等と連携して実施しているモデル校における支援の強化（幕張西小・高洲4小）

実現！

★ 子どもルームの整備運営（予算額 26 億 3,800 万円）

受入枠の拡大：幸町第三・幕張西・真砂西・磯辺第三・打瀬（ベイタウン・コア）
改修・増設：幸町第三小学校（教室改修）
ルーム増設の実施設計の予定対象校もあり

★ オリンピック・パラリンピック教育の推進（予算額 700 万円）

モデル校において障害者スポーツを授業で実践するなど、多様性理解や国際理解の力をはぐくむための教育を推進

実現！

★ 待機児童解消等のため、子ども・子育て支援新制度給付対象施設（保育所・認定こども園）の整備（予算額 10 億 3,000 万円）

整備箇所 43 か所 定員数 1,188 人

実現！

一般質問で求めた一時預かり保育事業・休日保育が市独自予算により拡充され、美浜区内では幼稚園の認定子ども園化（幼稚園型）も大きく進みました！

★ 母子健康包括支援センターの設置（予算額 1,800 万円）

妊娠期から子育て期までの総合的な支援を行う「母子健康包括支援センター」を平成 29 年 4 月に各区保健福祉センターに設置

★ 産後ケアの実施（予算額 800 万円）

産婦や乳児の心身ケア、沐浴等の実技指導、休息場所の提供を訪問型・施設型により開始（平成 29 年 7 月～）

★ あんしんケアセンターの充実（予算額 8 億 9,700 万円）

6か所増設、市内30か所（美浜区は稻毛海岸 5 丁目の囲域が真砂から高洲に変更される）

★ 認知症初期集中支援チームの増設（予算額 2,100 万円）

認知症の方やその家族に対して、初期の支援を包括的・集中的に行う支援チームを 3 チーム（中央区・稻毛区・緑区）体制に

★ がん検診（予算額 16 億 4,200 万円）

胃がん検診について、新たにリスク検査及び内視鏡検査を実施（無料クーポンについては対象年齢の見直し）

実現！

★ 避難所運営委員会活動支援（予算額 200 万円）

避難所運営委員会の自主的な訓練等の活動経費の助成を拡大

★ 急救医療体制整備（予算額 100 万円）

災害時に医療活動を行う救護所へ迅速に医薬品を提供するため、各区保健福祉センター近隣の薬局（予定）に医薬品を分散備蓄

…美浜区役所の事業（一部抜粋）…

● 美浜ステイ・プロジェクト

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、区の魅力を発見・発信・創出して、市外訪問者の区内滞在時間の増やすことを目指す。

● 美浜野菜フェスタ

生活習慣病の予防などのため、1 日 350g の野菜を摂る必要性と効果について「野菜ソムリエの講座」「簡単野菜レシピの実演」「共食」の大切さについて啓発するイベントを開催。

● 美浜区高校生連携会議

区内の高校 7 校に在学する高校生が主体となり、高校生の自由で新鮮な発想のもと、地域の課題解決や活性化をめざし、地域での清掃ボランティア活動や区内の高校生アンケートを実施。（今年度の実績 浜音祭の開催）

ご意見お待ちしております！



- お名前
- ご住所
- TEL/e-mail

*皆さんのご意見をお寄せください。地域の課題等お知らせください。

ご意見メモ▶



一般質問を行いました。

地域包括ケアシステムの推進について



国立社会保障・人口問題研究所による日本の地域別将来人口（平成25年3月推計）を基に作成された資料によると、千葉市の75歳以上の人口の伸びは2015年と比較して10年後の2025年には186%、15年後の2030年には194%になるとされています。また、在宅医療等の医療需要について2013年と比較すると、12年後の2025年には212%、22年後の2035年には248%と見込んでいる。

たばた直子の意見要望

- 地域包括ケア推進課の役割として府内外のネットワーク構築のため、組織の司令塔・調整役としての機能を強化し、総括的な立場から進めていく必要がある。
- 全庁的な連携について指揮系統を明確にするため意志決定権のある全庁横断的な推進本部を設置する必要がある。
- 保健福祉センターは地域福祉を担う拠点であるため、あんしんケアセンターとの連携に加え、行政区における基盤として、住民生活に浸透するための機能、日常生活圏域におけるネットワークの拠点としての機能、主体的な事業展開が可能な組織体制が必要。
- 行政保健師は多職種や実働部隊の司令塔・調整役。政策立案・事業運営に不可欠。人材育成・配置の拡充が必要。
- 在宅医療・介護連携には専門職（医師・訪問看護師など）の人材の不足が懸念される。人材育成・確保に早期に取りかかり安定した基盤を構築することが重要。
- 政令市として、主体的に医療政策に取り組み、両市立病院においても、在宅療養支援後方病院としての地域連携室や在宅療養支援病床の実績を伸ばし、他医療施設との関係強化を。
- 市長の強力なイニシアチブと、意思決定によるスピード感全庁的な意識改革を。

社会的養護の必要な子どもたちへの支援について

社会的養護とは？

保護者がいない児童、被虐待児など、家庭環境上、養護を必要とする児童などの養護を公的な責任で行うことをいう。対象児童は、10数年の間で、里親等委託児童数が約2.8倍乳児院では約2割増となっており、全国では約4万6千人千葉県では約1050人、千葉市でも約170人が対象。国では、社会的養護が必要な児童を、可能な限り家庭的な環境において、育てることが平成41年度までに本体施設地域小規模児童養護施設等の施設分園、里親やファミリーホームの割合を1:1:1にする目標を掲げている。

たばた直子の意見要望

実現!

- 児童養護施設等の家庭的な環境整備（小規模化）に早期に対応すべきと求めたところ平成29年度に予算化されました。
- 新生児を含めた2歳未満児の委託先について、特別養子縁組も含め、家庭的な環境（里親等）で育成できるよう配慮すべき。

3歳児の眼科健診について

3歳児の眼科健診の意義

約8%のお子さんが二次健診の対象となる。例えば、弱視は一説によると、子どものうち1.7~2%程度存在し、6歳未満から治療することで、9割以上の治療効果があるといわれている。

〈課題〉

厚生労働省が示す3歳児健診の視力検査方法は、自宅にてランドルト環を使って保護者が行うが、一次健診からオートレフ検査を実施できれば、疾患を見落とす可能性が減少する。千葉市では一次健診でのオートレフ検査は未実施。一次健診において必要とされるお子さんに対し、オートレフ検査を実施しているのは、政令市では静岡市のみ。県内自治体では、船橋市や柏市、市川市、我孫子市浦安市などで実施。二次健診において視能訓練士を置き、オートレフ検査を実施している自治体は、政令市では千葉市のみ。県内では、茂原市・流山市。幼稚園では学校保健安全法に基づき、視力検査を実施することが求められており、保育園の実施においても日本眼科医会が厚生労働省へ改善の要望を過去に提出。

たばた直子の意見要望

- 3歳児健診で確実に疾患を発見できる体制の強化。

- 公立保育所での眼科健診実施について検討してほしい。

（首都圏政令市でも実施している市がある。県内では、市川市・船橋市・習志野市・柏市・松戸市をはじめとした13市で実施。）

発行：たばた直子事務所

住所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3-4-4 2F

千葉海浜交通 稲毛海岸駅発→稻毛駅行きバス 真砂第三公団バス停前

TEL：043-216-3861 FAX：043-216-3891

メールアドレス：info@tabatanaoko.com

ホームページ：http://tabatanaoko.com

